

よさや美しさを感じ取り、表現する力が身に付く鑑賞活動の工夫
～小・中学校連携校における学習指導について～

常陸太田市立里美小・中学校 井上 朋美

I 研究テーマについて

1 児童の鑑賞活動について

作品を鑑賞する活動は、「見る」という単純な活動ではなく、鑑賞者のすべての経験をもとに、様々な感覚を働かせながら気づき、解釈して、自分なりの美的な価値を生成していく活動である。この活動は、今日、都市部の大型美術館の来場者数の増加や、昨年度開催された茨城県北芸術祭などに見られるアートへの関心の高まりがみられることからわかるように、豊かに生活するための手立てとして広く認識されつつある。

学校教育における鑑賞の活動は、学習指導要領で、地域の美術館と連携を図ることや言語活動の充実などが盛り込まれるなど、鑑賞教育の重要性が示されており、学校教育の中で充実していかなければならない活動の一つとなっている。現在の図画工作科教育では、作品や身の回りのもの、自然などから感じたことをもとに、自分の思いや考えを大切にしながら、自分なりの意味、新しい美、自分を発見するなどの鑑賞の学習が求められている。そのためには、自分の思いを語る、友だちとともに考える、感じたことを確かめるなどを通して、自分自身で意味を読み取り、よさや美しさなどを判断する活動の充実を図ることが必要不可欠である。また、その活動を通して感じたことを思うままに伝え合い、共有、認め合うことで、児童の自己有用感の獲得につなげていくことが可能となる。

2 小・中学校の連携について

本校は、県北地区の緑豊かな山間にある施設併設型の小・中連携校である。開校から4年目を迎え、小・中学校の教職員が一丸となって連携校ならではの教育について研究を進めてきた。

小中連携は、一貫性のある児童生徒の理解や学習指導の継続性など、様々なメリットがある。その中でも、本研究では教科担任制、乗り入れ指導につて考察していく。文部科学省は、相互乗り入れ指導のメリットを、「教員同士のつながりが強くなることにより、各種の研究協議や情報交換の密度が高くなり、児童生徒の理解が深まったり、学習指導・生徒指導の改善につながりやすくなったりする」（2016, p. 71）など数多く上げている。このことは、教師同士が意図して教育活動をすることで成立するものであり、学校教育すべてにおいて必要とされることである。

II 研究の実際

1 題材名 かんしょう文名人になろう

2 題材の目標

- 自分たちの作品に関心を持ち、表し方の工夫、よさや面白さなどを味わおうとする。
(関心・意欲・態度)
- 自分たちの作品について意見を伝え合うことを通して、よさや面白さを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

3 指導について

(1) 児童の実際

本学級の児童は、図画工作科への興味・関心が非常に高く、楽しんで活動することができる。A表現では、積極的に自分の思いを表現してきた。表現に対する固定観念を持たず、自由な発想でのびのびと活動できる。B鑑賞については、アートカードを使った活動や互いの作品を鑑賞する活動を

鑑賞文	人数
「○○(色, 形)がいいと思いました。」	6人
「○○(色, 形)が△△(様子)でいいと思いました。」	3人
「○○(色, 形)が△△(様子)で□□(想像したこと)みたいところがいいと思いました。」	1人

A表現 立体「カラフルフレンド」作品の相互鑑賞における鑑賞文の分析
第3学年1組 男5名 女5名 計10名

行っている。そこでは、形や色、それらを組み合わせたときの感じから得られるよさや面白さを直感的にとらえてはいるが、それを基に自分のイメージをもち、言語化して他者に伝えられる児童が少ない。

(2) 題材観

本題材は、対話型鑑賞の手法を用いて身近にある作品を鑑賞する活動で、学習指導要領図画工作科、第3学年及び第4学年の目標(3)「身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする」に対応している。対話型鑑賞は、製作意図や技法、作者についてなど、美術の知識をもとにして作品と向かい合うのではなく、教師のファシリテーション（活動の場で合意形成や相互理解をサポートすること）のもと、作品を観た時の感想やそこから想像されることなどをもとにして、グループで話し合いをしながら作品を鑑賞する方法である。この美術や作品についての知識を介さずに作品を楽しむ体験によって、それを他者と共有することを通して、想像力や思考力、表現力が育まれる。また、児童が形や色、作品のよさや美しさを能動的に感じ取ることで、造形的な創造活動の基礎的な能力の育成にもつながるものである。

(3) 指導観

そこで、①友達の作品を前にしてよく見る、感じる、考える、②考えたこと、感じたことを言語化する、③言語化したことをみんなの前で提示する、という場を設定する。そこでは、全ての児童が互いに関わりながら自分なりの感じ方や見方をもつことができるよう、多くの児童が発言できるファシリテーションを心がけると共に、児童のつぶやきの根拠をていねいに押さえ、理解し、作品の新たな価値を見出し、共有できるようにする。併せて、関連するつぶやき同士を結び付けて整理したり、それに関して発問したりすることで、今まで気付かなかった作品に対する見方に気付き、児童の感じ方が深まっていくように支援する。その際に、様々なイメージをキーワード化したものを提示し、自分の感じたことを思うままに言語化できるようにすることで、児童が自信をもって思いを表現できるようにする。また、学級担任と教科担当教諭が他教科における学習状況や鑑賞対象となる児童の作品の見取りを事前に共有することで、より効果的なファシリテーションが行えるようにする。そうすることで、児童の造形的な創造活動の基礎的な能力の向上と情意の調和的な発達を図る。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
自分たちの作品に関心をもち、表現の工夫、色や形のよさや面白さを意識的に味わおうとする。	対話を通して考えを深めながら、作品のよさや面白さを味わうことができる。

5 指導計画（1時間扱い）

時間	学習内容	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	○互いの作品をじっくりと鑑賞する	・自分たちの作品に関心をもち、表現の工夫、色や形のよさや面白さを意識的に味わおうとする。 関【観察】
	○感じたこと、考えたことの見聞交換を行う。 ○鑑賞文を書く	・対話を通して考えを深めながら、作品のよさや面白さを味わうことができる。 鑑【ワークシート】

6 指導の実際

学習活動・内容	指導上の留意点・評価（◎テーマとの関わり）
1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">友達の作品のいいところをさがしてみよう！</div>	・T1は、児童が友達の作品をより深く鑑賞できるようにするために、A表現「うれしかったあの気持ち」での活動を振り返り、遠足や描いた時の楽しかった気持ちを思い出せるようにする。 ・T2は、児童のつぶやきに共感しながら、鑑賞への意欲がより高まるように声掛けを行う。

- 2 グループに分かれて作品を見る。
- (1) だまって作品をじっくり見る。
 - (2) 感じたこと、考えたことをワークシートにメモする。

【たとえば、こんなところを見てみよう！】

- 色 … みどり、みどりっぼい
- 様子 … まる、つるつる、ピカッ、ピカリ、ピカピカ
- 想像したこと
… 強そう、やさしそう、宝石みたい、雲みたい
- かき方
… ペン、コンテ、ほくじゅう、ひっかく、こすって

☆ヒントカード☆

キラキラ ふわふわ つんつん ドキドキ など

- 3 メモをもとに意見を交換し合う。



- 4 鑑賞文を書く。

【かんしょう文名人になるには】

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○○が … なにが？ △△で … どんな様子で？ □□みたいで … 想像しよう！ | <p>ステキ！
おもしろい！
カッコイイ！
かわいい！</p> |
|--|---|

- 5 本時の振り返りをする。

自分たちの作品に関心を持ち、表現の工夫、色や形のよさや面白さを意識的に味わおうとする。
【関・観察】

- ・グループは発言力や鑑賞の能力に偏りが無いよう編成し、自由に、互いに高め合いながら活動できるようにする。
- ・様々な様子や気持ちをキーワード化したヒントカードを使って、児童が自分の感じたことを思うままに言語化できるように支援する。
- ・鑑賞の視点が定まらず活動に入れない児童には、色や形、描かれているものなど着眼点を決めて鑑賞するように助言する。
- ・細かな筆遣いや表現の工夫に気付かせるために、作品に近づいたり、離れたりしながら鑑賞するようにうながす。

◎それぞれの発言の中から関連するものを結びつけて意見を集約したり、発問したりすることで、児童の作品に対する見方や考え、感じ方が深められるようにする。

児童A「この緑、きれいだな」

児童B「いろいろな緑がまざって」

教師「そうだね。よく見ると山の緑も、いろいろな緑が混じっているよ。」

児童A 窓の外の山を見ながら「…ほんとだ！きれ」

◎言葉だけでなく、視線や身振り手振りから児童の感じ取ったことを教師が汲み取り、対話を通して言語化することで、児童の思いを明確にできるよう支援する。

- ・グループで鑑賞した作品のすべてに対して鑑賞文を書いてから、特によかった作品について追記させることで、誰もが自分の作品のよさを友達に認めてもらえる機会が得られるようにする。

対話を通して考えを深めながら、作品のよさや面白さを味わうことができる。

【鑑・ワークシート】

- ・活動の中で新たに気付いたよさなどもワークシートに記入させ、感じたことを可能な限り表現させられるようにする。

III 研究の成果と課題

1 成果

(1) 児童の鑑賞活動について

様々な様子や気持ちをキーワード化したものを提示したことは、児童が感じたことを思うままに言語化できる助けとなった。

また、この体験が他教科の学習でも児童の力となって発揮される場面が見られた。意見を交換し合う場面では、友達の発言から自分の感想を深めたり、新しい作品の見方や良さに気付いたりする姿が見られた。また、友達の発言に心から賛同する姿が多く見られ、互いに認めたり認められたりする活動は児童の自己有用感を高めるために効果的だった。

鑑賞文	授業前	授業後
「〇〇(色, 形)がよいと思いました。」	6人	0人
「〇〇(色, 形)が△△(様子)でよいと思いました。」	3人	3人
「〇〇(色, 形)が△△(様子)で□□(想像したこと)みたいなのところがよいと思いました。」	1人	7人

検証授業前後の変容 第3学年1組 男5名 女5名 計10名

【活動前後のワークシートに見られる表記の変容1】

赤いところや本物のいいをみたくてですね。

作品のよいところ	
立	立たせたところがすこりと思
彦	彦夏がかわいいめがかったです
リ	リボンがかわいいです。
口	口のところがかわいいです。
ひ	ひげがかわいいです。

△活動前

表現のなかによさを感じてはいるが、漠然とした表記が多い。

かんしょう文	
レクタがゆらゆら らゆれてるところ がたのしそです	レクタがゆらゆら しているのてたのしそ でいいです
糸の部分が本 物草みたいで きれいです	糸の部分が草み たいにちくちくしていき てきれいです
たぎがきらきら 光っているみ いできれいです	たぎがきらきら光 ていまにも音がきこ えそできれいです

△活動後

自分の感じたことを豊かに表現できている。

【活動前後のワークシートに見られる表記の変容2】

リボンとレクタはとろろが いいの。

作品のよいところ	
い	まるいやつをくねくねできる 戸がかわいいと思ました
リ	リボンのところにきいろいたま をかけたのがいいと思ました
め	めとかからこいと思ました まねしたいです
か	かわいいなと思ました。まねした いです
め	めとかいばとか体がまねしたい です

△活動前

表現のなかによさを感じてはいるが、漠然とした表記が多い。

あがるいかんじ	じぶんやあともめたたせ るこがよいと思 ました
レベルがからふる	スピードがいろいろ出てき いで、本物ぽくして、 いてきて
ゆうじょうがにこにこ	太陽みたいにみんな かわらしたのいいかん じでほんものほい

△活動後

友達との会話を通して、考えを深め、表現している。

(2) 小・中学校の連携について

小学校学級担任がT1、中学校教科担当教諭がT2となり共同で授業を行うことで、学級や児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな対応が可能になった。特に、次の2点においてその

効果が発揮された

① 学級担任が授業を行うことで深まる学び

学級担任が指導にかかわることは、他教科での学びを活動に生かすことができたり、学校生活全般での体験を表現や鑑賞活動につなげたりすることが可能になる。五感を十分に使った学びや体験に基づく表現、鑑賞はとても豊かで、それらを共にした学級担任だからこそ効果的な支援、言葉かけが可能になる。また、中学校教科担当が学級担任と日頃の児童の活動を伝え合うことで、T2としての効果的な関わりや学級の実態、発達段階に応じた指導が可能となり、児童の学びをより深く、より主体的なものとすることができた。

② 図工・美術科担当が支援することで深まる学び

教科担当教諭が児童の表現やつぶやきをより専門的に見取り、T1、T2が共に情報を共有しあうことで、学級担任による児童の表現の本質に迫った指導、評価が可能となった。また、互いに図画工作科指導の研修を深めることで、指導法の広がりを図ることが可能となった。このことは児童の学びの質の向上だけでなく、教師の指導力向上にも効果的だった。

(2) 課題

鑑賞文を書くときに、ヒントカードにある言葉のみで表現してしまう傾向が見られた。図画工作科の活動以外でも言語活動をより充実させ、児童の語彙力の向上を図っていく必要がある。